

令和7年度 西東京市立保谷中学校 学校評価報告書

学校教育目標 ・ 進んでやりぬく心と体をもつとなる【豊かな心・実践力】・自分で正しく判断し行動する人となる【探求力・学びを活かす力】・責任を重んじよく協力する人となる【よりよい社会を形成する力】

- 【目指す学校像】豊かな人権感覚に根差したあたたかな環境と信頼関係に基づき、地域と共に生徒一人一人の可能性を引き出し高め、課題の発見・探求・解決を図ることのできる資質・能力を育成する学校
- 【目指す生徒像】自尊感情とともに多様な他者を尊重、協働し、自ら学び、課題の探求・解決を図ることのできる生徒
- 【目指す教師像】豊かな人権感覚と教師としてのプロ意識のもと、自らの良さ、強みを発揮し、組織的に地域と協働し、生徒主体のよりよい教育活動に向けて精進する教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

一方で、目標・課題の明示、生徒の興味を引き出す工夫、自律的な学びの促進がなされており、生徒の主体性や学習意欲の向上に一定の成果が見られる。また、数値上の評価においてやや差が見られる項目も存在しており、教育活動の意図が生徒に十分に伝わっていない可能性がある。また、「協働的な学び」や「個別最適な学び」のバランス、教員間の実践の共有や質の均一化も今後の課題として挙げられる。さらに、振り返りや学習の見直しを持たせる指導がより一層効果的になるような工夫が求められる。

【学校評価】 1・2・3学期の結果 (1【最低評価】～5【最高評価】の5段階) ※ (R7の数値)

	中期経営目標概要	短期経営目標	具体的方策	概要	設 問	1学期		2学期		3学期		平均		地域 学校 関係者	概要	課題と 次年度以降の対策			
						生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者						
実 社 会 に 生 き ま け る 学 力	主体的に学ぶ姿勢を重視し、協働的な学びと個別最適な学びの相乗効果を図り、自ら課題を見出し解決を図る実践的な課題解決力や「実社会に生きて働く学力」を養う。	生徒が自ら学習意欲をもって学習の目標・課題を見直しを持ち振り返りを行いながら、主体的・自律的に学習を進める姿勢を養う。	授業目標・課題を明示し、生徒の興味を引き出し、受け身の暗記・再生ではなく、目標・課題に向けて思考・判断を伴う知識・技能の活用を図り、達成感の得られる授業の工夫・改善を行う。常に生徒の視点に立ち、生徒主体の学習活動を展開する。	自ら学ぶ意欲	1	4.2 (4.6)	4.1 (4.1)	4.4 (4.6)	4.1 (4.0)	4.5 (4.6)	4.0 (4.0)	4.4 (4.6)	4.1 (4.0)	4.2	自ら学ぶ意欲	【課題】授業のねらいや課題は示しているものの、授業の中で「理解する、活用する、振り返る」の割合が十分ではなく、達成感につながりにくい場面もある。 【次年度以降】各授業で「今日の目標」と「事後にできるようにしたい授業」を指示し、学んだことを使って考える場面を振り返りを必ず入れる。まずは各教科で実践しやすい型の一つ決め、継続して定着させる。			
		生徒が自ら「問い」を立て、自分なりの方法で、自分なりの答えを見出す「探求力」を養う。	生徒が自ら発する「問い」から解決を図る「探究の過程」を支援し、生徒が自分なりの「答え」を見出せるよう支援を行う。	探究力	2	4.1 (4.4)	3.6 (3.6)	4.3 (4.3)	3.6 (3.5)	4.3 (4.4)	3.6 (3.6)	4.2 (4.1)	3.6 (3.6)	4.1	探究力	【課題】探究の取組は行っているが、問の立て方やまとめ方が、調べ学習でまよってしまうことがある。成果の見え方にも差が出ている。 【次年度以降】「問いを立てる一情報を集める一整理する一自分の考えとしてまとめる」の基本手順を示し、途中で確認する場面を設ける。発問や指示などで成果を共有し、学びが積み上がるようにする。			
		学習課題に向けて自ら考えを形成しながら、対話的・協働的によりよい課題解決を図る力を養う。	ファシリテーションの手法等を活用し、各教科領域において、ペアワークやグループ学習を活性化させ、対話的・協働的に課題解決を図る授業を展開する。	協働的な学び	3	4.2 (4.6)	3.8 (3.7)	4.3 (4.4)	3.7 (3.7)	4.4 (4.6)	3.9 (3.8)	4.3 (4.5)	3.8 (3.7)	4.2	4.2	協働的な学び	【課題】グループ活動は増えているが、話し合いの目的が曖昧なまままた、意見交換で終わる学習の深まりにつながっていないことがある。 【次年度以降】話し合いの目的（理由をそろえる、解き方を比べる等）を進め方を明確にし、最後に「分かったこと・次の課題」をまとめられるように教員のファシリテーション力を高める。		
		新たな社会や学校における革新的なツールとなる ICT を最大限活用することにより、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成すること → 「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	生徒が学校の授業及び家庭学習において、ICT端末を学びの手段として積極的かつ日常的に、効果的に活用することで、新しい多機能な「文房具」として自由な発想で活用できるような環境を整え授業をデザインしていく。生徒がICTを適切・安全に使いこなす情報活用能力の育成、及び情報モラルの育成を図る。	ICT機器の活用（学校内）	4	4.1 (4.5)	3.2 (2.6)	4.3 (4.5)	3.6 (3.6)	4.5 (4.5)	3.7 (3.6)	4.3 (4.5)	3.5 (3.3)	4.3 (4.5)	3.5 (3.3)	3.9	ICT機器の活用（学校内）	【課題】ICT端末は活用しているが、使う場面や目的がばらつき、学びの深まりよりも「使えこと」が先に立つ場面もある。安全な使い方の徹底も継続課題である。 【次年度以降】ICTは「考えを見える化し、振り返りを促す」などの目的を絞って授業に組み込み、基本的な使い方を日常的に定着させる。情報モラルは振り返りを通して、危険を避ける行動につなげる。	
		学習課題に向けて、ICTを活用するなど、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく個々の生徒の特性とニーズに応じた「個別最適な学習」を実現し、個々の資質・能力の効果的な育成を図り課題解決力や「実社会に生きて働く学力」を養う。	ICTやタブレット端末を効果的に活用するなど学校と家庭の双方において個々の学習ニーズや学習スタイルに応じた個別最適な学習を可能にする支援・指導を行う。また学力不振生徒に対しては補充学習等の充実を図る。生徒自身が自ら合った学習の進め方や学び方を考えたり、選択することができるように支援・指導する。	ICT機器の活用（家庭内）	5	3.5 (3.6)	2.8 (3.2)	3.4 (3.6)	3.1 (3.1)	3.6 (3.5)	3.3 (3.3)	3.5 (3.6)	3.1 (3.2)	3.5 (3.2)	3.1 (3.2)	3.2	ICT機器の活用（家庭内）	【課題】家庭学習での端末活用は、家庭ごとに差が大きくなり、学習の手段として定着していない。使い方の不安から活用が促せられる場合もある。 【次年度以降】家庭に負担が掛かりすぎないように無理のない範囲で習慣化を図る。そのため、家庭での約束（時間・場所・使い方）を共有し、安心して使える環境を整える。	
		学習課題に向けて、ICTを活用するなど、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく個々の生徒の特性とニーズに応じた「個別最適な学習」を実現し、個々の資質・能力の効果的な育成を図り課題解決力や「実社会に生きて働く学力」を養う。	ICTやタブレット端末を効果的に活用するなど学校と家庭の双方において個々の学習ニーズや学習スタイルに応じた個別最適な学習を可能にする支援・指導を行う。また学力不振生徒に対しては補充学習等の充実を図る。生徒自身が自ら合った学習の進め方や学び方を考えたり、選択することができるように支援・指導する。	個別最適な学び	6	4 (4.5)	3.5 (3.4)	4.1 (4.3)	3.4 (3.4)	4.2 (4.2)	3.4 (3.5)	4.1 (4.3)	3.5 (3.5)	4.1 (4.3)	3.4 (3.5)	4	個別最適な学び	【課題】学習のつまずきや得意・不得意に応じた支援が行われているが、支援の内容や経路が整理されにくい。 【次年度以降】学習状況や定期的な点検し、つまずきの早期発見と共有を行う。段階別課題と補充の仕組みを整え、基礎の定着と伸長の両面を継続的に支える。	
		「全教育活動を通して生徒が自己のキャリア形成を日々の学びの中で自覚し、さらに将来、主体的に社会に参画し自己実現を果たせるよう、自己のキャリア形成を意図的に図れる資質・能力を培う。	生徒自身が各教科や学校の学びを、将来に役立たせ自己のキャリア形成に生かせるように指導の工夫を行う。 キャリア・パスポートの効果的な活用により生徒の自己理解の深化と自覚的・意図的なキャリア形成を促し支援を図る。	キャリア形成自己実現	7	4 (4.4)	3.9 (3.8)	4.1 (4.3)	3.9 (3.8)	4.3 (4.3)	3.9 (3.8)	4.1 (4.3)	3.9 (3.8)	4.1 (4.3)	3.9 (3.8)	4.3	キャリア形成自己実現	【課題】各進路の取組と、日々の学習や学校生活と結び付けて「今の自分に必要な力」を具体化できない面も見られる。 【次年度以降】キャリア・パスポート等を活用し、学期ごとに目標を振り返りを行う。各教科の学びが何れにもどうつながるかを授業内で言葉にし、段階的に自己理解を深める。	
豊 か な 人 間 性	あたたかな環境と信頼関係のもと、互いの個性や人格を尊重する心や自他のよさを引き出し高め合える「豊かな人間性」を育む。人権教育と道徳教育の充実を図る。特別支援学校の生徒や、地域住民・家庭その他関係者の連携の下、いじめの問題克服に向けて取り組みを行う。	あたたかな環境と信頼関係のなかで、互いの人格を尊重し、自他ともに大切にすることを「思いやり」の心を育み「豊かな人間性」を育む。	全教育活動における様々な体験活動の中で、あたたかな環境と人との信頼関係を築き、互いの人格を尊重し「思いやり」の心をもって他の人に接することができる「豊かな人間性」を培う。「西東京あった先生」の取り組みを推進し、人権について考える機会を設ける。道徳教育公開講座等を活用し道徳教育を充実させる。	思いやり	8	4.2 (4.6)	4.3 (4.3)	4.5 (4.6)	4.3 (4.2)	4.6 (4.6)	4.3 (4.3)	4.4 (4.6)	4.3 (4.3)	4.5	思いやり	【課題】思いやりのある行動は見られるが、すれ違いやトラブルの場面で相手の立場を踏まえて言葉で調整する力が必要である。 【次年度以降】体験活動や道徳等を通して、人権や相互理解を後う機会を継続する。日常の場面で「伝え方・聴き方」を意識させ、良い関わりを具体的に認めて広げる。			
		いじめのないあたたかな環境と良好な関係を築き、生徒一人一人が自他の可能性やよさを発揮し、安心して学校生活が送れるようにする。	深い生徒理解に基づき生徒指導を推進し、いじめ撲滅と予防に向け、毎月アンケートを行い、情報を収集し早期の対応を図る。生徒会活動等を通して、意識の向上を図り困っている人を見逃さず声を掛けを掛けられるような生徒の育成を行う。	良好な人間関係	9	4.2 (4.7)	4.4 (4.4)	4.6 (4.7)	4.4 (4.2)	4.6 (4.7)	4.5 (4.3)	4.5 (4.7)	4.4 (4.3)	4.5 (4.7)	4.4	4.6	良好な人間関係	【課題】いじめの予防や早期対応の仕組みはあるが、小さなサインを見逃さないための情報共有と、目の届かない面をさらに充実させる。 【次年度以降】似た情報を検閲・整理し、学年・関係機関での共有をさらに深めていく。生徒会活動等も生かし、「困っている人に気づく、声をかける」文化を継続して育てる。 【課題】相談体制は整っているが、悩みが深くなるまで抱え込み、相談につながるまで時間がかかることがある。また、継続的に見守ることができずSC等との共有を進める。 【次年度以降】生活相談先からやりやすさを示し、早めに相談できる雰囲気をつくる。家庭と連携を強化し、困り方を徹底して支援できるように連携を進める。	
		教育相談体制を充実させ、生徒が自己理解・他者理解を深め、安心して学校生活を送れるよう支援する。	生徒一人ひとりが自らの個性やよさに気づき、さらに他者の個性のよさや個性を認め互いに高め合えるように、教育相談の充実を図る。	教育相談	10	4.1 (4.4)	4 (4.1)	4.4 (4.5)	4.0 (4.0)	4.3 (4.5)	4.2 (4.1)	4.3 (4.5)	4.1 (4.1)	4.3 (4.1)	4.1 (4.1)	4.3	4.3	教育相談	【課題】行事等で主体性は育ちつつあるが、準備や役割分担の経験に場違い感があり、最後までやり切ることや継続して行うことが難しい場面がある。 【次年度以降】生徒が企画・運営を担う場を与え、役割を細かく分けて参加の幅を広げる。途中の振り返りを入れ、目標を明確にする「やり切れた経験」を積み重ねる。 【課題】健康づくりの意識は高いが、生活リズムの乱れや体力差が学校生活に影響する場面がある。感染症等への備えも継続的に必要である。 【次年度以降】保健指導・食育等を計画的に行い、基本的な生活習慣を振り返り確認する。体力づくりは無理なく続けられる目標を設定し、段階的に取り組めるようにする。
		粘り強い意志、意欲、実践力の基盤となる健全な心と体を育成し、ものごとを主体的・自律的に粘り強くやり続ける力、最後までやり抜く力の基礎を培う。特別支援学校の生徒や、地域住民・家庭その他関係者の連携の下、いじめの問題克服に向けて取り組みを行う。	生徒が自ら創り上げる生徒主体の行事等を成功させ、達成感や自己肯定感を育み、やり抜く力を培う。	やり抜く力	11	4.3 (4.6)	4.5 (4.4)	4.6 (4.7)	4.5 (4.4)	4.6 (4.5)	4.4 (4.0)	4.6 (4.6)	4.4 (4.0)	4.5 (4.5)	4.3 (4.3)	4.3	4.3	やり抜く力	【課題】行事等で主体性は育ちつつあるが、準備や役割分担の経験に場違い感があり、最後までやり切ることや継続して行うことが難しい場面がある。 【次年度以降】生徒が企画・運営を担う場を与え、役割を細かく分けて参加の幅を広げる。途中の振り返りを入れ、目標を明確にする「やり切れた経験」を積み重ねる。 【課題】健康づくりの意識は高いが、生活リズムの乱れや体力差が学校生活に影響する場面がある。感染症等への備えも継続的に必要である。 【次年度以降】保健指導・食育等を計画的に行い、基本的な生活習慣を振り返り確認する。体力づくりは無理なく続けられる目標を設定し、段階的に取り組めるようにする。
社 会 規 範 意 識	学校生活や地域の様々な集団活動を通して、生徒が自ら集団や社会のよさや規範の意義を理解し責任と役割を主体的に果たせるように支援を行う。また、働く人々から直接あるいは間接的に学び、社会に貢献する意欲・意識を培う。挨拶運動、ボランティア活動等の体験を通して社会貢献に貢献する心や社会貢献の基本的行動を身に付けられるように支援する。	生徒の主体的な集団活動の中で、生徒が自ら集団の倫理を自律的に高められるように支援する。集団活動の中で生徒一人一人が倫理感や責任感、自律心を向上させ、正しい判断に基づき行動できるようにする。	物事の良し悪しの判断、挨拶・授業規律・時間厳守を生徒主体の集団活動の中で身に付けられるように支援する。生徒の自主・自律を自指し、集団内で自らを生かした責任ある行動がとれるように支援を行う。	正しい判断	13	4.2 (4.7)	4.4 (4.4)	4.6 (4.6)	4.4 (4.3)	4.6 (4.7)	4.4 (4.4)	4.5 (4.7)	4.4 (4.4)	4.5	4.4	正しい判断	【課題】挨拶や時間、授業規律などはねかわられているが、場面によって意識が揺れたり、判断に迷うときも自分で考えて行動に移せられない場合がある。 【次年度以降】生徒主体の集団活動を通して、必要なルールの意味を確認し、自分で考えて行動を遂げ経験を育む。具体的な場面を取り上げ、判断の基準を共有する。		
		生徒自らが進んで挨拶をし、お互いが気持ちよく過ごせるためのルールやマナーを尊重し実践できるようにする。集団活動の中で、集団や社会的規範の意義と重要性を理解し自他を律し規範に即して行動できるようにする。	授業の始めや終わり、校舎への挨拶、普段から挨拶のあふれる雰囲気や生徒が作り上げるよう支援する。学級委員会等の集団活動を体験する中で、集団や社会における規範の意義と重要性を理解し自他を律し規範に即して行動できるようにする。	あいさつ規範意識	14	4.2 (4.5)	4.2 (4.2)	4.4 (4.5)	4.1 (4.1)	4.5 (4.5)	4.1 (4.1)	4.5 (4.7)	4.1 (4.1)	4.4 (4.6)	4.1 (4.1)	4.4	4.4	あいさつ規範意識	【課題】挨拶や規範意識は良好だが、相手や場に応じた振る舞いまで身に付ける必要がある。 【次年度以降】授業の始末や日々の挨拶、生徒会活動等を主体として、生徒自身が雰囲気づくりを担えるよう支援し、定着を図る。
		学校生活の様々な集団活動を通して、集団や社会のよさや意義を理解し責任と役割を主体的に担うように支援する。地域や社会で働く人々から直接あるいは間接的に学び、またボランティア活動等の体験を通して、社会に貢献する心や社会貢献の基本的行動を身に付けられるように支援していく。	学級活動や委員会等の様々な集団活動を通して、集団や社会のよさや意義を理解し責任と役割を主体的に担う。職業学習等を通して地域に働く人々の役割・社会的貢献力・郷土愛等を身近に学び、社会に貢献する意欲・意識を培う。挨拶運動やボランティア活動等の体験を通して社会貢献の基本的行動を学ぶ。	社会に貢献する心	15	4.2 (4.6)	4.1 (4.2)	4.5 (4.6)	4.1 (4.0)	4.5 (4.5)	4.1 (4.1)	4.5 (4.6)	4 (4.1)	4.4 (4.6)	4.1 (4.1)	4.4	4.3	社会に貢献する心	【課題】社会に貢献しようとする意欲は高い。各活動が単発に感じやすく、学びとしての振り返りや達成感が継続的に感じられるようにする。 【次年度以降】委員会、学級活動、挨拶運動やボランティア活動等を通して地域の役割を学び、振り返りを行い、学びを言葉にして共有する。